

卒業制作が劇場公開へ！
『沈没家族』がゼミの武蔵から生まれた理由
【対談】加納 土 監督×永田 浩三 教授（武蔵大学 社会学部 メディア社会学科）

武蔵大学（東京都練馬区／学長 山崎哲哉）では3月12日に本学出身で映画監督の加納 土 氏（以下 加納 監督）と在学中に指導教授であった社会学部メディア社会学科の永田浩三教授の対談を開催いたしました。今回の対談は、加納監督が在学中に卒業制作として発表した『沈没家族』の劇場公開に先駆けて行われたものです。

『沈没家族【劇場版】』は4月6日よりポレポレ東中野にて公開予定です。

↓対談はこちらから

<https://goo.gl/UJnUrF>

映画『沈没家族』とゼミの武蔵

『沈没家族』とは？

1995年に東京都東中野でシングルマザーの加納穂子さんが始めた共同保育の取り組みのことで、当時多くのメディアにも取り上げられました。加納 土 監督が武蔵大学在学中に卒業制作として発表した映画『沈没家族』は、加納土監督(当時大学生)が、自身を育ててくれた保育人を訪ねる中で、家族の在り方を問うドキュメンタリー作品です。



加納 土 監督 プロフィール



1994年生まれ、神奈川県出身。武蔵大学社会学部メディア社会学科の卒業制作として『沈没家族』を2015年から撮影を始め、完成した作品は PFF（びあフィルムフェスティバル）等の映画祭で評価された。卒業後はテレビ番組会社に入社し、ドキュメンタリーや情報番組の制作に従事しながら、本作の「劇場版」の公開に踏み切った。本作が初監督作品。

『沈没家族【劇場版】』公式サイト：<http://chinbotsu.com/>

永田 浩三 教授 プロフィール



武蔵大学社会学部教授。専門はドキュメンタリー研究。元 NHK ディレクター・プロデューサー。『NHK スペシャル』や『クローズアップ現代』などを制作。著書として『ヒロシマを伝える』『奄美の奇跡』（ともに WAVE 出版）、『ベン・シャーンを追いかけて』（大月書店）、『NHK と政治権力』（岩波現代文庫）、編著『フェイクと憎悪』（大月書店）など多数。「言論の不自由展」「表現の不自由展」の共同代表を務めるなど、言論・表現に関わる社会活動も多い。大阪市出身。

■ 武蔵大学〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕 ～都心に近く 緑豊かなワンキャンパス～

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立旧制七年制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。武蔵大学は、経済、人文、社会の3学部8学科からなる文系総合大学。一年次から4年間のゼミナールが必修で「ゼミの武蔵」といわれる。近年ではロンドン大学の学位が取得できるプログラムや国際村の設置などグローバル教育にも力を入れている。

学長 山崎哲哉 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1